【公表の参考様式（管理機関用）】

別添３

令和３年６月３０日

令和２年度　特別の教育課程の実施状況等について

熊本　都・道・府・県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
小国町立小国中学校（外１校）	小国町教育委員会	国・公・私

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
小国町立小国中学校	小国中学校ウェブサイト hhttps://jh.higo.ed.jp/oguni/wysiwyg/file/download/20/1329	小国中学校ウェブサイト https://jh.higo.ed.jp/oguni/wysiwyg/file/download/20/1327 https://jh.higo.ed.jp/oguni/wysiwyg/file/download/20/1328

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

・英会話科（小３～中３まで）。中１は２０時間、その他の学年は３５時間実施。

・中１は総合的な学習の時間の一部（１７時間）を削減。各学年とも残りの１８時間を授業時数の増加で３５時間を生み出している。

・授業時数の増加に対応するため、２学期の始業式を５日程度早め、標準総授業時数に達するように計画している。

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

・平成２１年度に６つの小学校を統合し、新たに小国小学校を開校。隣接する小・中学校が一体となった小中一貫教育を実施することとなった。

・町には例年多くの観光客が訪れ、観光客に対応できるコミュニケーション能力が求められ、その人材育成に力を注いでいる。

・英会話科での学習をきっかけに、日常的な会話ができる程度の英会話力を身につけることを目標に取り組むことは、町の付託に応えることになり、国際社会を生きる子どもたちに必要な資質の向上に繋がるものと考える。

（３）特例の適用開始日

・令和２年４月１日

（４）取組の期間

・令和７年３月３１日

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

※（１）で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

＜特記事項＞

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

・今年度より新規にＡＬＴ（アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）と契約し、毎週３日来校している。英会話科の授業に週２日参加し、ゲームやペア活動など計画的な指導をとおして、生徒が主体的に授業に参加するようになり、日常生活におけるコミュニケーション能力の向上に役立っている。また、英語の授業にＴ２として参加し、外国人と接する機会を多く持つことによって、異文化への興味・関心・理解も深まっている。

・中学卒業段階で英検３級以上の英語力を有する生徒の割合「５０％以上」の達成目標を掲げ、英語力の向上を目指している。本町では、年３回行われる英語検定のうち町教育委員会で１回分の予算を措置し、中１・２・３年生に受検させている。中３の年度末集計での３級以上合格者は、令和２年度４５．３％（令和元年度３６．０％）と、目標達成まであと一歩である。

〇現在中学２年生の英語は、ほとんどの領域・観点で目標値を上回っていた。その中でも「書くこと」は目標値より５ポイントほど上回っており、授業での学びが活かされている。

〇現在中学３年生の英語は、聞くこと、関心・意欲・態度は目標値を上回っている。しかし、その他の領域、観点で課題が見られる。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

・本町では、「９年生（中３）の姿に全職員で責任を持つ」を合い言葉に、年間１１回の小中合同校内研修を行っている。小中学校の教科部会で共通理解を図り、全授業で共通実践している。どの授業でも単元の目標を明確化して単元構想を行い、単元のゴールを設定し授業に臨んでいる。

・英語部会では、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識した言語活動を行っている。そして、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動を研究している。また、CAN-DO リストに基づいて、指導計画や評価計画を作成している。

５．課題の改善のための取組の方向性

・英語の課題として、読むこと（領域）、言語や文化についての知識・理解の観点に課題が見られた。選択問題での間違いが多く、文法事項の確実な定着ができていない

・対策として、帯活動で既習表現の復習を継続して行う。また、場面や状況をイメージさせながら読み物資料を活用すること、短い文章から取り組むことで、主体的に読み取ろうとする態度を育てる。さらに、授業で学習した内容を必ず家庭学習で復習するような宿題の提示（工夫）、ノートの活用を図っていく。

・小学校「外国語科」（各担任）や「英会話科」（小学校ＡＬＴ）との小中連携を更に図っていく。特に、「外国語科」についてはスタート間もない教科なので、小学校でどんな学習をしているのか、逆に中学までにどのような資質・能力を付けておく必要があるのかを明確にしておく必要がある。